

阪神・淡路大震災から29年



阪神・淡路大震災が発生してから、今年で29年になります。29年といえば、長い年月に感じてしまうかもしれません。時間が経てば経つほど「風化」は進んでいきます。神戸では、震災の記憶「風化」を防止する狙いで市内の六甲山系堂徳山で夜間に点灯している「KOBE」の下に「1.17」を追加しました。この光は毎年1月17日に追悼行事が開かれる神戸市中央区の公園「東遊園地」やJR三ノ宮駅周辺から見ることができます。

「風化」が進むと震災当時の記憶やその震災の経験から得た教訓等が忘れ去られ、再び同じような災害が起こった時に、当時と同等、あるいは当時よりも大きな被害をもたらすことにつながってしまいます。

阪神・淡路大震災等の過去の震災の記憶を未来に伝承し、防災・減災の取組をすすめ、この後、大きな災害が発生したとしても被害を最小限に食い止めるようにすることが大切です。そのためにも、避難訓練はとても大切な取組です。自分や周りの人の「命を守る」ために真剣に取り組みましょう。また、既に避難訓練を終えた学校では、今後の災害の備えとして参考にしてください。



「緊急地震速報が発表されたら・・・」



※ 関連：安全ノート P.22～30

緊急地震速報が発表されたら

あわてず、まず身の安全を！

緊急地震速報を見聞きしたとき、揺れを感じたときは
危険な場所から離れるなど、状況に応じて身の安全の確保を

屋内では

- ・頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する
- ・あわてて外に飛び出さない
- ・無理に火を消そうとしない



鉄道・バスでは

- ・つり革、手すりにしっかりつかまる



エレベーターでは

- ・最寄りの階に停止させ、すぐにおりる



屋外では

- ・ブロック塀の倒壊に注意
- ・看板や割れたガラスの落下に注意





避難訓練のポイント「お・は・し・も」



※ 関連:安全ノート P.22~30

「お・は・し・も」は自分の命も友達の名も守るための合言葉

おさない



- ・前や周囲の人を
押しません
- ・押すと人が倒れて危険です
- ・思わぬケガにつながります

はしらない



- 並んで、前の人と間を空けずに
歩いて
- 避難します

しゃべらない



- おしゃべり**を
すると先生の指示が聞こえなくなって
しまいます

もどらない



- 忘れたものがあっても教室には
戻りません
- 命**よりも大事な物はありません



コラム「語り継がれる震災体験」

阪神高速道路で落下免れたバス

突然ドン、と衝撃が走り、空がフラッシュをたいたように光った。その後は上下左右に激しく揺さぶられ、目の前には空と高速道路の路面が交互に飛び込んできた。「ブレーキが利かない」。先輩が叫んだ。

バスが止まると、目の前の道路がなくなっていた。対向車線のトラックが高架から地面に落下し、炎上している。自分たちのバスは、車体下のエンジン部が道路にひっかかっていた。「乗客がもっと多ければ、ブレーキが利きづらくて落下していたかもしれない」と安井さん。乗客と後部の非常ドアから車外に出ると、周辺のあちこちで火の手が上がっているのが見えた。

高速道の非常階段から地上に降り、公衆電話から支店に電話し状況を説明したが、宿直の社員に「そんなはずないやろ」と返された。京都には情報が伝わっておらず、にわかには信じてもらえなかった。

先輩とコンビニで使い捨てカメラを買い、現場近くの地上からバスを撮影した。周囲にはガスの臭いが漂っていた。まず大阪まで戻ろうとタクシーを探し回り、昼すぎに大阪の淀屋橋までたどり着いた。わずか十数キロ離れただけの大阪の街では、普段通りに人が行き交う。飲食店で昼食を取り、京都行きの私鉄に乗った。乗客の男性が手にした夕刊に、自分たちのバスの写真が大きく掲載されていた。「僕たちこれに乗ってたんですよ」。そう話すと驚かれた。京都の支店まで帰り着いたのは夕方だった。「よく無事だった」。同僚に迎えられ、号泣している社員もいた。「語れるのは無事だったからこそ」と安井さん。「あんなひどいことが、二度と起きてはいけない。震災をもっと全国の人に知ってもらえるよう、会社にいる限りは伝えていきたい」と話す。



※ 参考:神戸新聞 NEXT 2021年 1月15日記事より